

第2章 霧島市のスポーツ振興の現状と課題

1 霧島市の取組と現状

(1) 霧島市の人口

霧島市の人口は、令和元年に12万4,367人となっており、過去10年間の人口推移をみると、ピーク時の平成22年と比べ3,120人減少しています。また、生産年齢人口（15歳～64歳）は7,352人減少している一方で、老年人口（65歳以上）は5,539人増加しています。

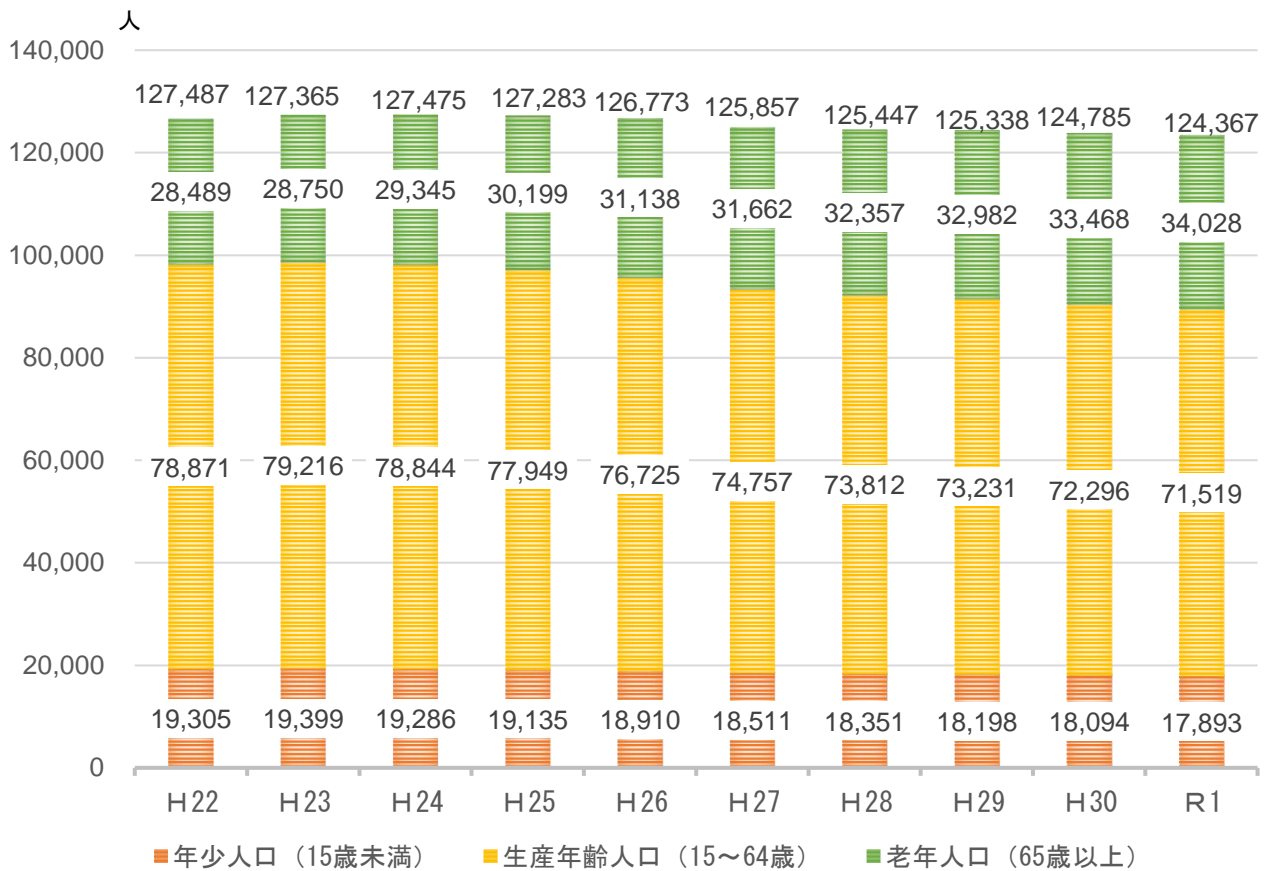


図1 霧島市の人口推移

(資料) H22、H27：国勢調査

それ以外：鹿児島県推計人口（年報）

※総数に年齢不詳人口を含んでいるため、総数は、年齢3区分別人口の合計とは一致しません。

(2) 市民意識調査の結果

平成 29 年度に実施した市民意識調査によると、スポーツを「全くしていない」人の割合は 36.1%で最も高く、次いで「週に数回程度」が 23.4%、「月に数回程度」が 13.6%、「年に数回程度」が 12.9%の順になっています。年代別では、20 歳から 64 歳までの層において「全くしていない」が約 4 割を占めました。

一方、令和元年度にスポーツ庁が行った「スポーツの実施状況等に関する世論調査」によると、成人の週 1 日以上の実施率は 53.6%で、週 3 日以上の実施率は 27.0%となっています。また、「この 1 年間に運動・スポーツはしなかった」かつ「現在運動・スポーツはしておらず今後もするつもりがない」と答えた「無関心層」が 15.2%となっており、本市の状況と比較すると、定期的にスポーツをしている人の割合はそれほど大きな差はありませんが、「スポーツを全くしていない」と答えた人の割合は、2 倍以上の開きがあることが分かります。

続いて、「運動・スポーツを行いやすい環境が整っていると思うか」の問に対し、約 5 割が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えています。また、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」が約 3 割を占めており、年代別にみると 20 歳代で「どちらかといえばそう思わない」と答えた人の割合が最も高くなっています。

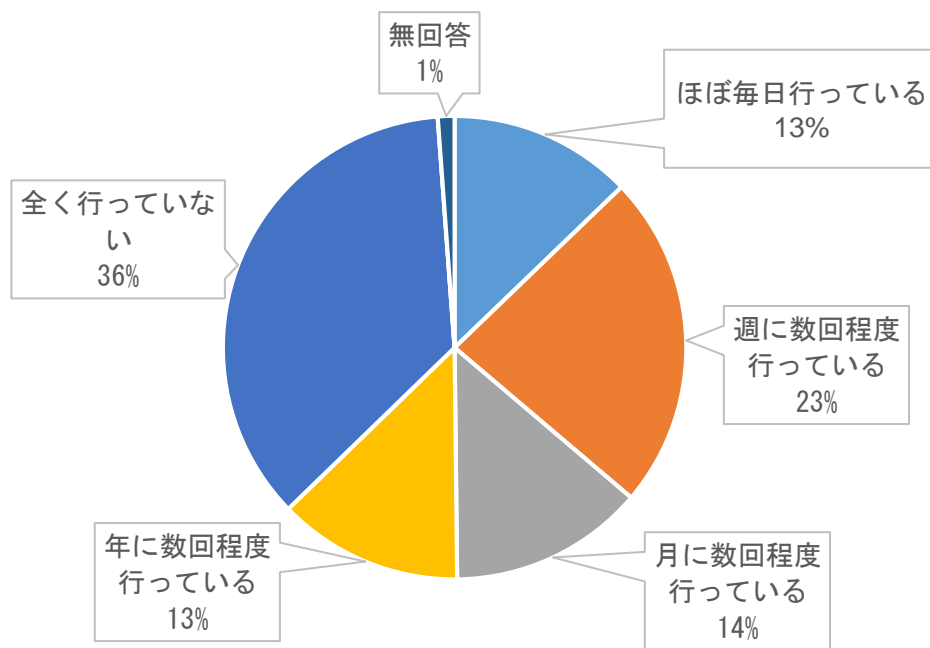


図 2 運動・スポーツの実施頻度

(資料) 平成 29 年度市民意識調査

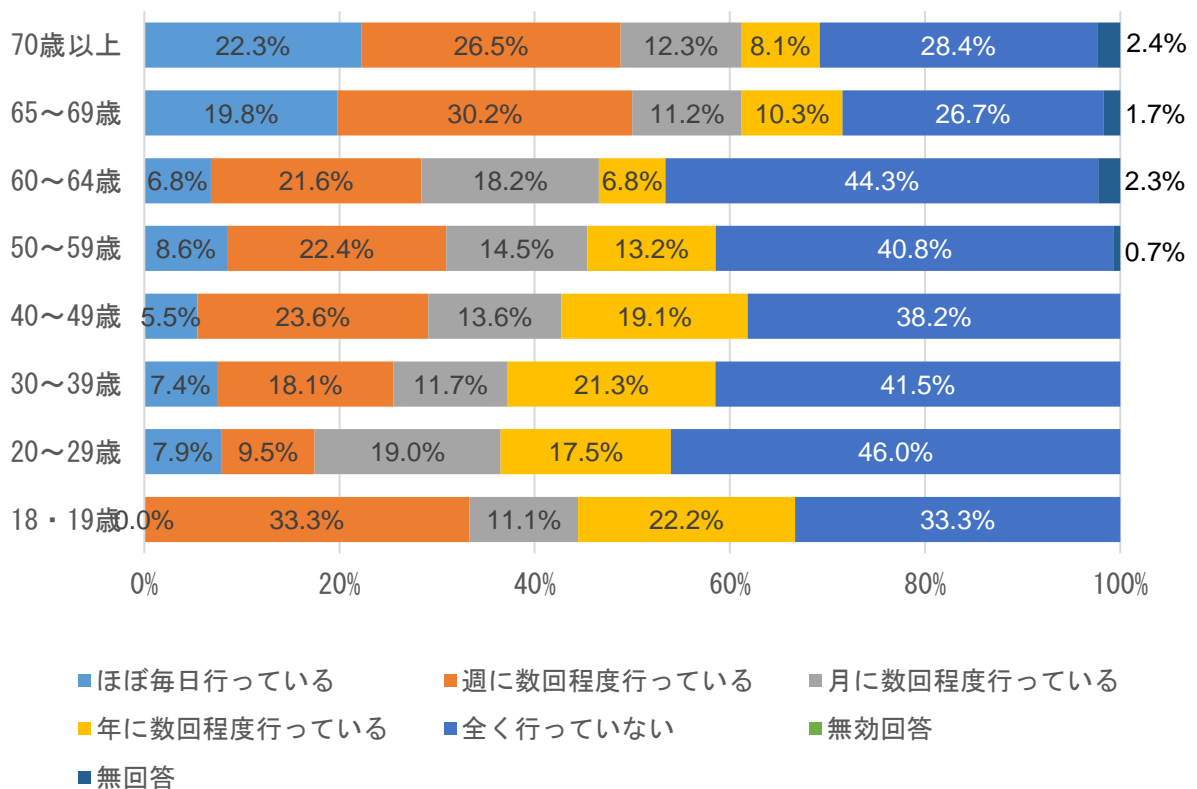


図3 運動・スポーツの実施頻度（年代別）

（資料）平成29年度市民意識調査

【参考】

令和元年度スポーツ庁調査

- 成人の週1日以上スポーツ実施率は**53.6%**
- 成人の週3日以上スポーツ実施率は**27.0%**
- 「この1年間に運動・スポーツはしなかった」かつ「現在運動・スポーツはしておらず今後もするつもりがない」と答えた「無関心層」は**15.2%**

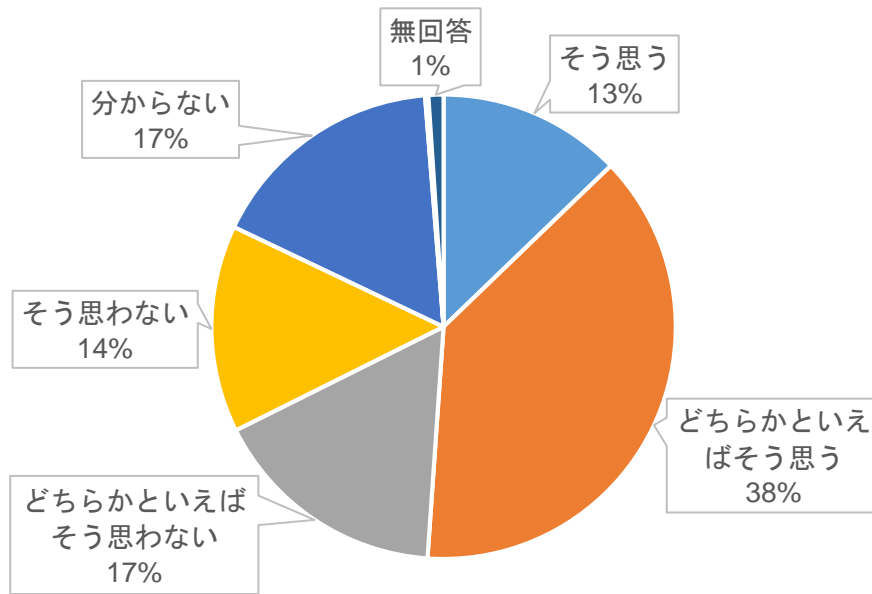


図4 運動・スポーツを行いやすい環境が整っていると思うか？

(資料) 平成29年度市民意識調査

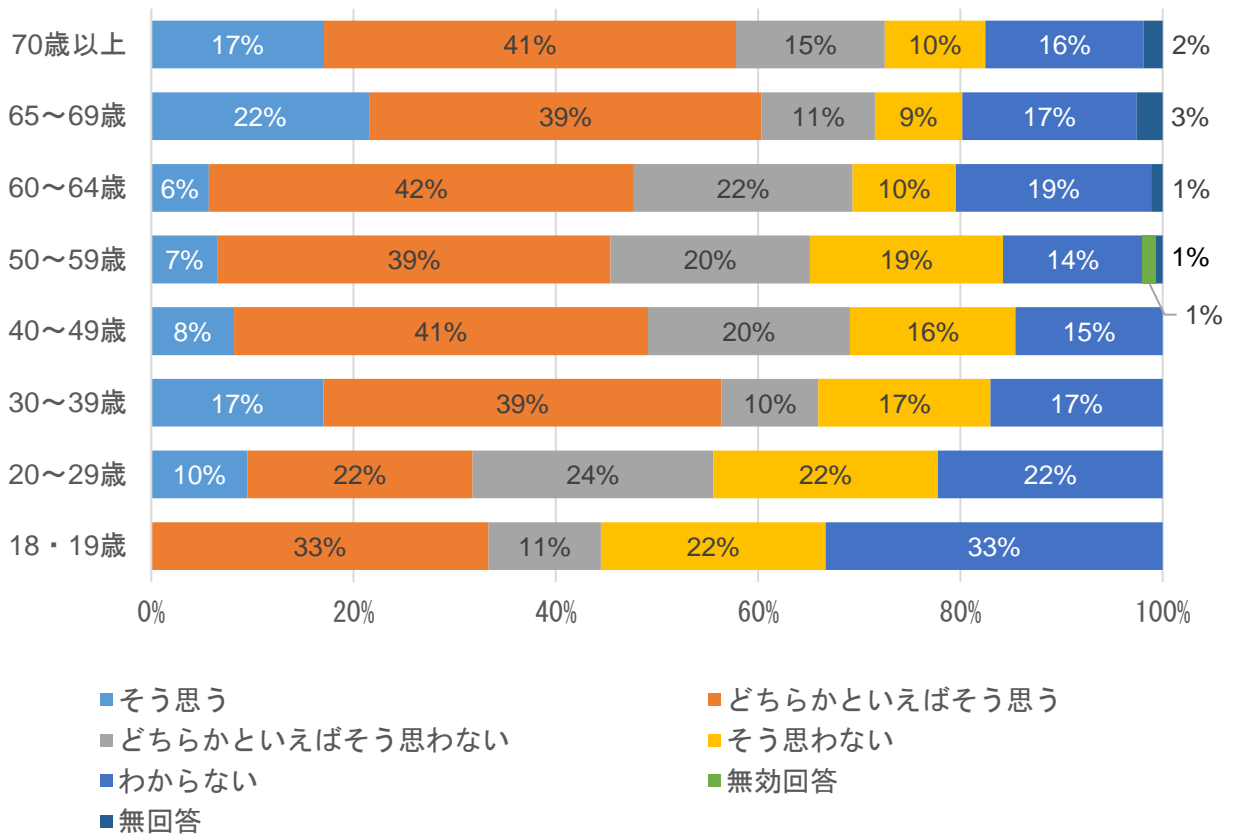


図5 運動・スポーツを行いやすい環境が整っていると思うか？（年代別）

(資料) 平成29年度市民意識調査

(3) 子どもたちの体力

児童生徒の体力合計点*1は、小学校女子と中学校男子は上昇傾向にありますが、それ以外の調査区分については前年値を下回っています。また、すべての年代・性別で県平均を上回るものの、全国平均には達していません。

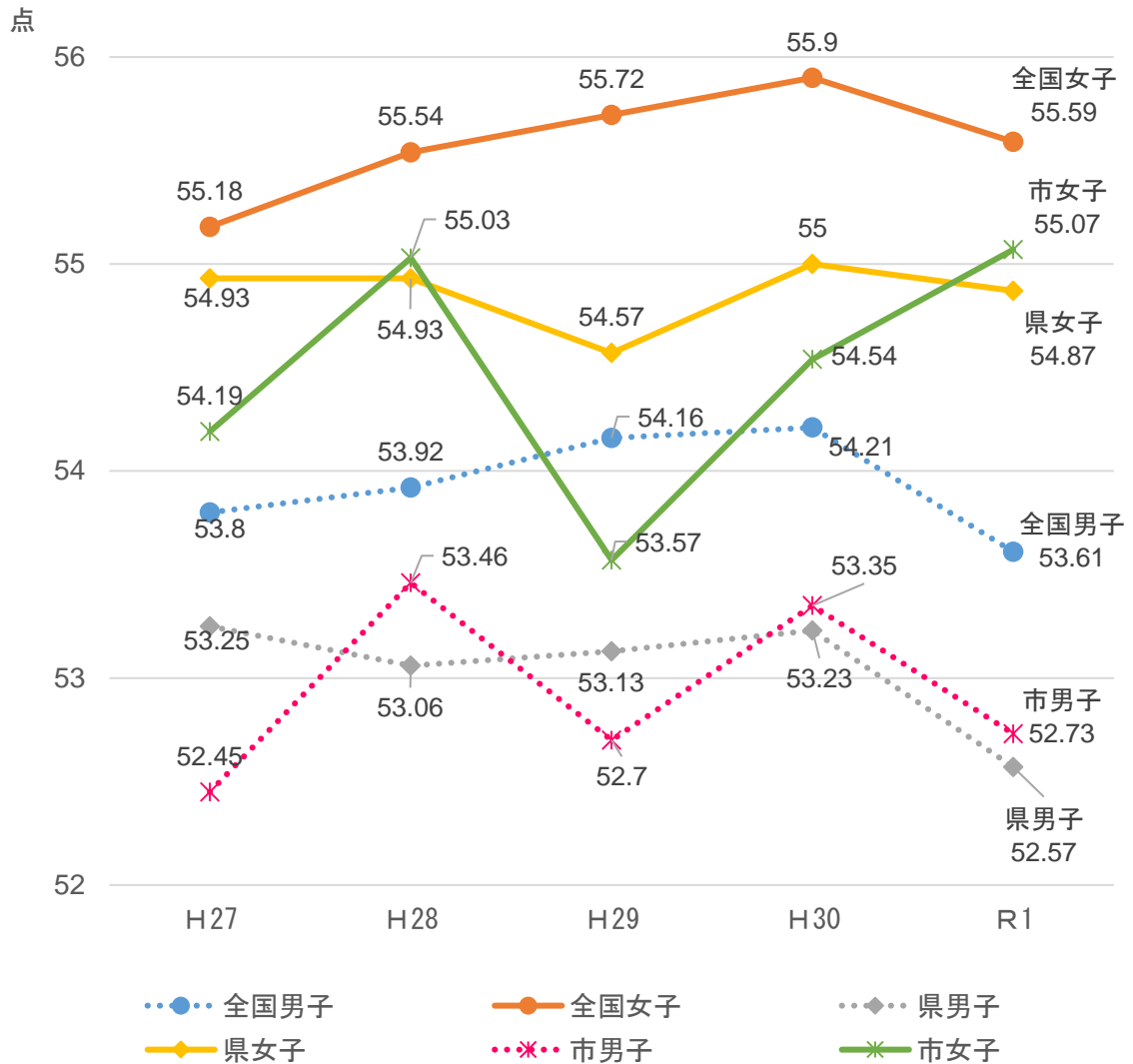


図6 体力合計点の推移（小学校）

（資料）小学校別体力合計点の経年比較

*1 体力合計点・・・体力・運動能力調査8項目（握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20M シャトルラン、50M走、立ち幅とび、ボール投げ）における、各10点×8項目の80点満点。

点

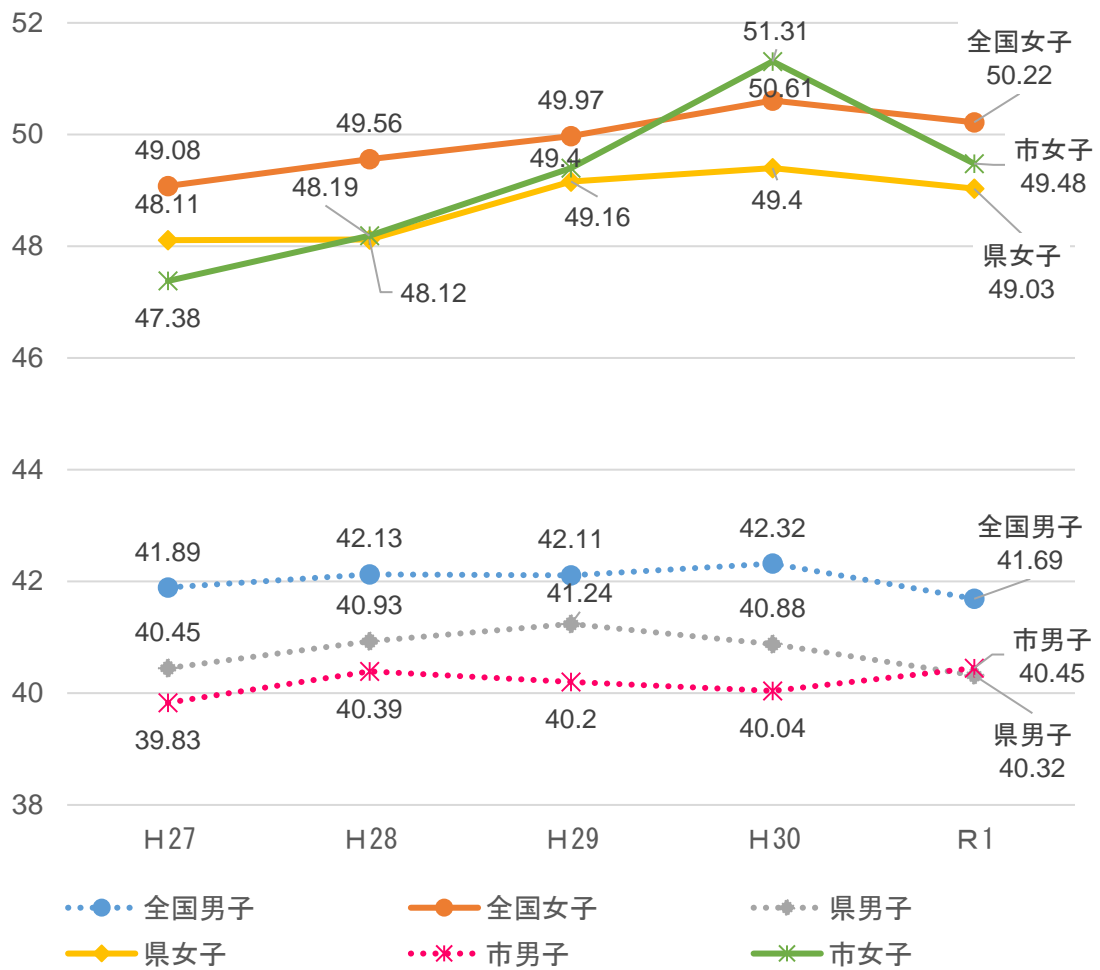


図7 体力合計点の推移（中学校）

（資料）中学校別体力合計点の経年比較

(4) 各種スポーツ団体・クラブ

本市のスポーツ団体・クラブは、スポーツ少年団の団体数は減少しているものの、霧島市スポーツ協会（旧体育協会）の加盟団体や総合型地域スポーツクラブ*2数は微増となっています。競技者数は、減少率に差があるものの、すべての団体において減少傾向にあります。本市では、霧島市スポーツ協会をはじめ、各スポーツ団体に対し、運営・事業費の補助や社会体育施設の使用料減免の措置等を行い、それぞれの活動を支援しています。

また、関係機関と連携し、「霧島スポーツまつり*3」や「霧島市・上野原縄文の森駅伝大会」の開催など、各種スポーツ活動に取り組んでおり、さらに運動する機会の少ない障害のある人のために、気軽に運動できる場や運動を楽しむ機会を提供することを目的とした「ふれあいスポーツ・レクリエーション教室」を開催するなど、障がい者スポーツの推進にも取り組んでいます。

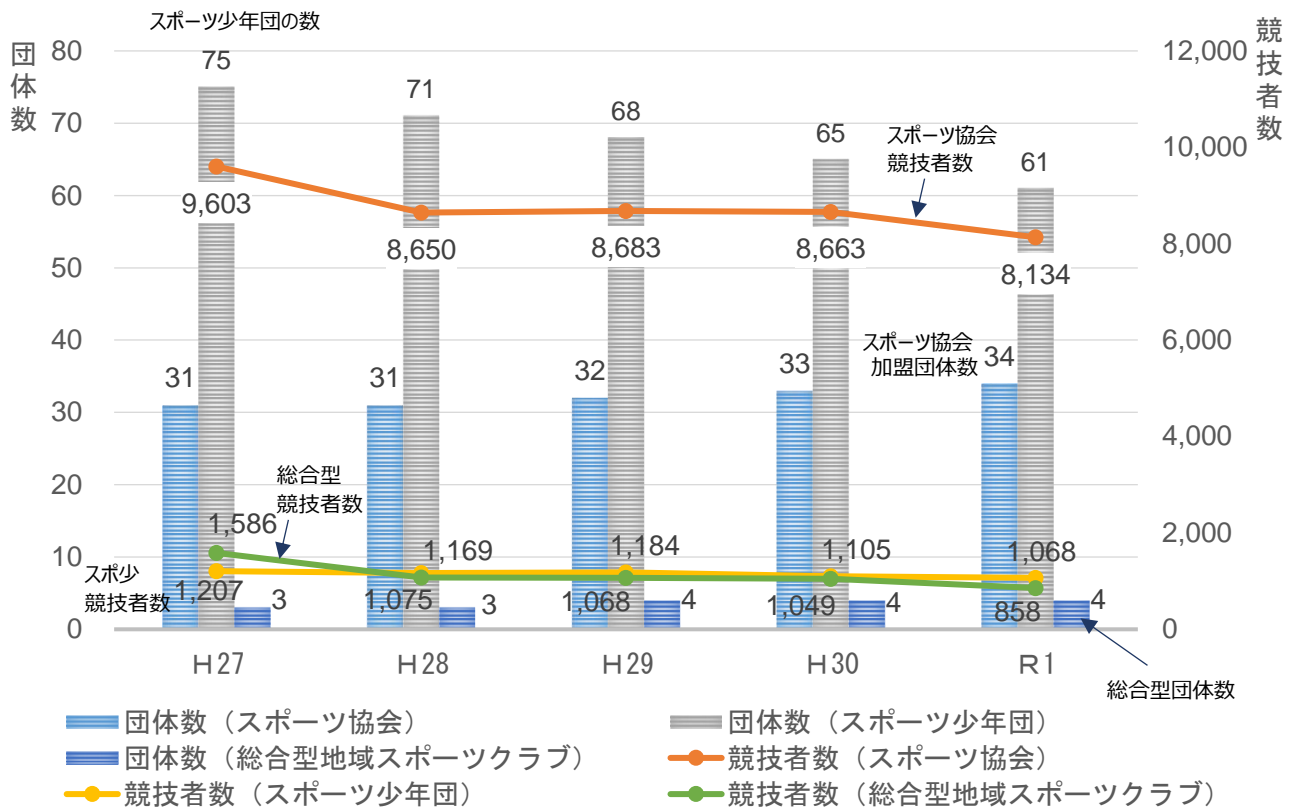


図8 霧島市スポーツ団体・クラブの推移

※スポーツ協会・総合型地域スポーツクラブは各年4月1日現在、
スポーツ少年団は各年9月1日現在

*2 総合型地域スポーツクラブ・・・地域の人の年齢、興味関心、技術技能レベル等に応じた様々なスポーツ機会を提供する、「多種目」「多世代」「多志向」のスポーツクラブ。

*3 霧島スポーツまつり・・・市スポーツ協会が主催する、運動が苦手な方も得意な方も、経験者も未経験者も、老若男女問わず誰でも楽しく参加できる体験型のスポーツイベント。



霧島市・上野原縄文の森駅伝大会



霧島スポーツまつり

(5) スポーツ活動の指導者育成

本市では、スポーツ行政の推進者として、スポーツの実技指導、その他スポーツに関する指導・助言を行うスポーツ推進委員*4を91名委嘱しており、地区自治公民館や市民団体からの求めに応じてスポーツ推進委員を派遣し、性別や年齢に関わらず誰でも気軽にできるニュースポーツの普及に大きな役割を果たすなど、本市の生涯スポーツの振興に大きく寄与しています。

また、市民の様々なニーズに対応できるよう、資質向上を目的とした研修会を自ら企画・立案し、実践しています。



霧島市スポーツ推進委員協議会研修会



ニュースポーツ体験講座

*4 スポーツ推進委員・・・スポーツ基本法第32条に基づき、市が委嘱する非常勤公務員。本市は91名のスポーツ推進委員を委嘱しており、地域にスポーツの楽しさを伝え、誰もがスポーツをしやすい環境をつくるため、地域で事業の企画・運営などを行っています。

(6) スポーツキャンプ・大会の誘致

本市では、年間を通じて温暖な気候で全国有数の観光地でもある特色を生かし、市の活性化や観光客の誘致によるスポーツ交流人口の拡大を目的に、プロスポーツのキャンプや企業・社会人・大学のスポーツ合宿、大会を招致しています。

○スポーツキャンプ・合宿（団体数）

競技	プロ・社会人団体	学生団体	合計
サッカー	4	1	5
野球・ソフトボール	3	3	6
陸上	0	4	4
合計	7	8	15

○大会（大会数）

（令和元年度実績）

競技	大会数
陸上	1

（令和元年度実績）

(7) 社会体育施設の運営

平成 27 年に策定した霧島市公共施設管理計画によると、本市の保有する公共建築物の総延床面積は約 82.2 万㎡で、人口規模が類似する他の地方公共団体と比べると突出して高い値となっています。また、本市の公共建築物の構成をみると、公営住宅やスポーツ・レクリエーション施設の占める割合が非常に高いことが大きな特徴となっています。

社会体育施設については、ほとんどが合併以前に整備されており、老朽化が進む中、安心・安全に利用できるよう施設の修繕を行うとともに、指定管理者と連携しながらサービスの向上に努めてきました。令和元年度に実施した指定管理施設利用者アンケートによると、施設の整備・用具の更なる充実を求める声が多くなっています。

また、国民体育大会や全国障害者スポーツ大会の開催に向けては、国分運動公園の陸上競技場メインスタンドの改修や国分体育館の空調設備の設置をはじめ、ハンドボール競技会場となる各体育館の照明の LED 化等を行いました。

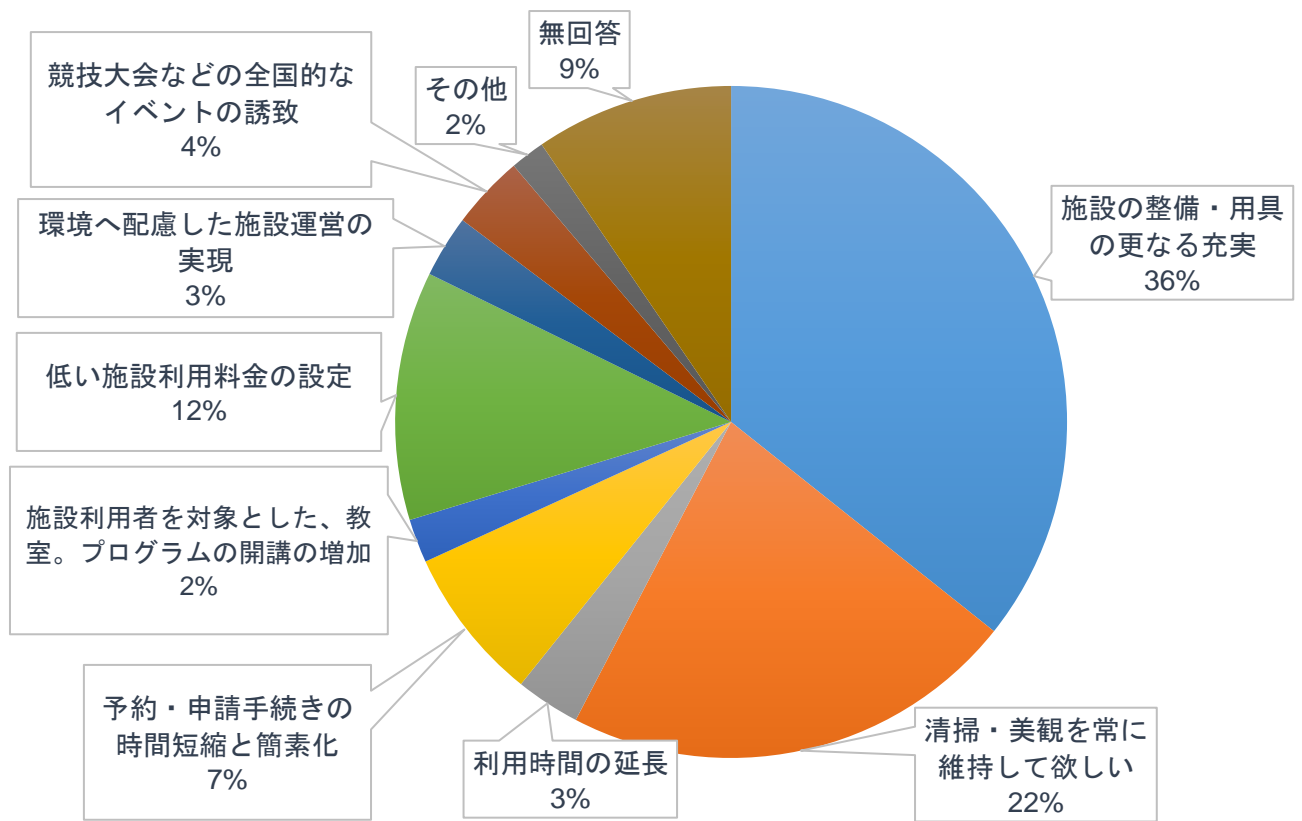


図9 今後、どのような施設運営を望むか

(資料) 令和元年度指定管理施設利用者アンケート



国分陸上競技場



福山パークゴルフ場

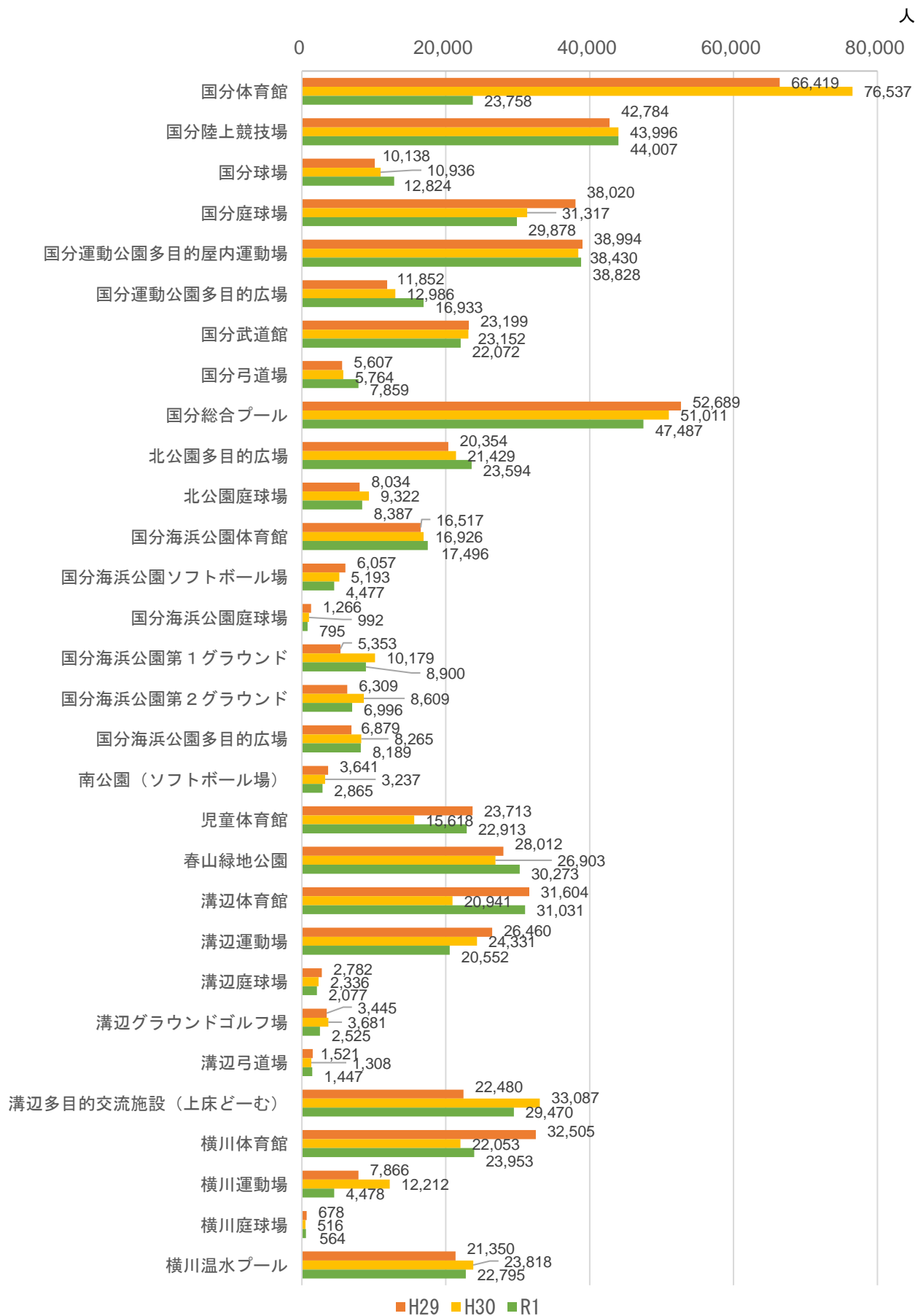


図 9-1 市内の社会体育施設利用者数（人）

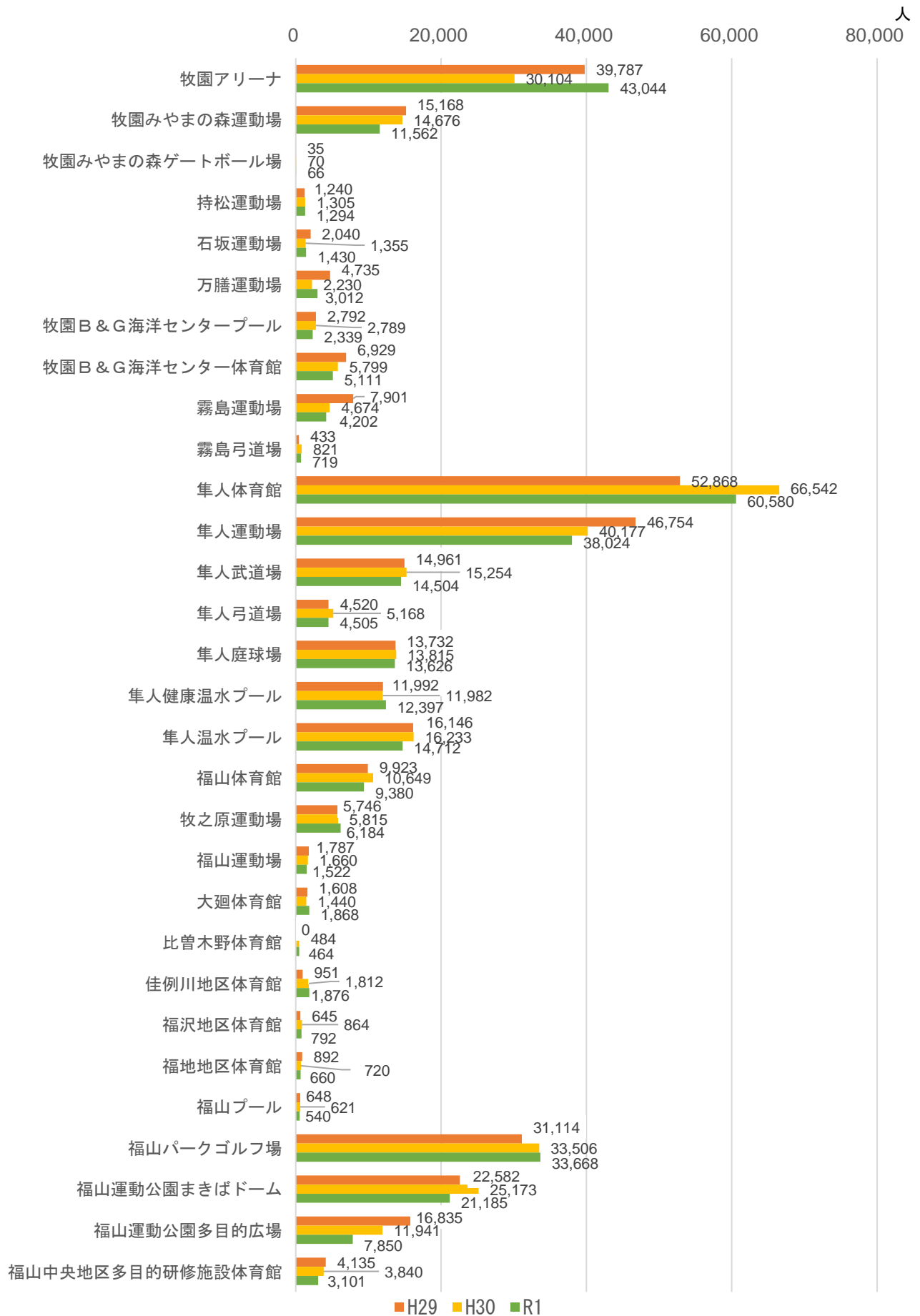


図9-2 市内の社会体育施設利用者数（人）

2 霧島市のスポーツ振興の課題

(1) 生涯スポーツの推進

● ライフステージに応じたスポーツ実施率向上の取組が必要

本市のスポーツ実施率は全国と比べ低く、国が目標とする「成人のスポーツ実施率を週に1回以上が65%程度」に及びません。また、「スポーツを全く行わない」と答える人の割合が高く、全国と比べるとスポーツをする人とならない人の二極化が進んでいます。いつでも、どこでも、それぞれの関心や適正に応じて、生涯にわたって主体的にスポーツに親しむことは、体力向上や健康の保持増進はもとより、明るく豊かで活力ある生活の実現につながることから、生涯スポーツの推進を図る必要があります。

● 障害のある人もスポーツを楽しめる環境づくりが必要

障害のある人のスポーツ活動は、健康増進やリハビリテーションに役立つだけでなく、自立と社会参加の促進につながるため、障害の種別、程度にかかわらず、だれもがスポーツ活動に参加しやすい環境を整える必要があります。

● 生涯スポーツを支える人材と組織の育成が必要

スポーツ推進委員をはじめとするスポーツ指導者の育成や、スポーツ関係団体との連携・組織力の向上を図り、スポーツを支える人材の活躍の場を増やしていくことが重要です。また、これらの人々の存在や活躍を市民に広く周知し、認知度を高めることが地域の活性化に繋がります。

● 総合型地域スポーツクラブの支援が必要

子どもから高齢者まで、様々なスポーツをそれぞれのレベルに合わせて参加できる総合型地域スポーツクラブの活動をさらに充実させるため、地域住民のニーズを踏まえた魅力あるプログラムを開発・提供するとともに、会員の定着を支援する必要があります。

また、総合型地域スポーツクラブに対する市民の認知度を高め、地域に根ざしたクラブ運営を支援していく必要があります。

(2) 競技スポーツの推進

● スポーツを楽しめる場作りが必要

本市にゆかりのあるスポーツ選手が各種大会等で活躍するなど、競技スポーツの活性化は市民に夢や感動を与え、スポーツを通じた青少年の健全育成につながります。また、現在本市でキャンプを実施する団体の数は近年横ばいであり、種目もサッカーや社会人野球、ソフトボールなど

に固定化しつつあることから、現在キャンプを実施している競技以外の誘致にも力を入れ、スポーツを通じた交流人口の増加を図り、スポーツを楽しめる場を増やしていく必要があります。

- **競技者の支援が必要**

全国大会等の各種体育大会に県代表の一員として出場する選手や団体に対し、出場に要する経費の一部を助成しており、引き続き競技者の支援を行い、競技力の向上を図る必要があります。

(3) スポーツ環境の整備

- **市民の生活に身近なスポーツ環境の整備が必要**

市民意識調査では、「スポーツを行いやすい環境が整っていると思うか」の問に、約3割の人が「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答しています。また、指定管理施設の利用者アンケートでは、「今後、どのような施設運営を一番望むか」の問に対し、「施設の整備・用具の更なる充実」と答えた方が36%で最も高いことから、市民が利用しやすいスポーツ施設の環境を整える必要があります。

- **計画的な施設の改修が必要**

老朽化の著しいスポーツ施設や類似施設が多いことから、市公共施設管理計画に基づいて既存のスポーツ施設のあり方を検討しつつ、利用者の安全性や利便性を考慮し、計画的に改修等を行う必要があります。

- **スポーツ情報の発信が必要**

現在、市内全域に光ファイバー網を整備しており、ますますインターネットなどのSNSが市民に身近なものとなります。そのため、施設利用やスポーツに関する講座等の情報発信に力を入れ、スポーツ関連の情報が手軽に市民へ届くよう努める必要があります。